

令和4年9月定例会 経済委員会（事前）

令和4年9月9日（金）

〔委員会の概要 商工労働観光部関係〕

原委員長

休憩前に引き続き、委員会を開会いたします。（13時39分）

これより、商工労働観光部関係の調査を行います。

この際、商工労働観光部関係の9月定例会提出予定議案について、理事者側から説明を願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

【提出予定議案】（説明資料（その2））

- 議案第2号 令和4年度徳島県一般会計補正予算（第7号）

【報告事項】

- 新型コロナウイルス感染症の影響拡大に係る県内企業への実態調査の結果について（資料1）
- 徳島県立中央テクノスクール「多目的ホール」におけるネーミング・ライツ制度パートナー企業の決定について（資料2）
- 「とくしまマラソン2023」について（資料3）
- 「とくしまグルメ」プレミアム食事券の申込状況について

梅田商工労働観光部長

商工労働観光部から、今定例会に提出を予定しております案件につきまして、説明資料（その2）に基づき御説明いたします。

1 ページ目を御覧ください。

令和4年度一般会計につきまして、補正額欄の最下段に記載のとおり2億3,659万8,000円の増額をお願いしており、補正後の予算額は合計で809億1,775万9,000円となっております。

次に、2ページを御覧ください。

課別主要事項説明の商工政策課について御説明いたします。

中小企業指導費の摘要欄①のア、小規模事業者ゼロエミッション加速事業につきましては、去る5月の臨時会におきまして県内小規模事業者がエネルギー利用最適化診断に基づき実施する省エネルギー投資への補助制度としてお認めいただき、現在、県内の製造業や飲食業、建設業など幅広い業種の事業者の皆様から82件、4,970万2,000円の申請を頂いております。

今後、電力需要の高まる冬季を迎えるに当たり、更に約150件分の省エネルギー投資を補助する予算として8,000万円の増額をお願いするものでございます。

続きまして、3ページを御覧ください。

新未来産業課・工業技術センターでございます。

工業技術センター費の摘要欄①のア、工業技術センター運営費につきましては、工業技

術センターにおいて使用する試験設備等に要する電気料金の上昇分として2,048万1,000円の増額をお願いするものでございます。

4 ページを御覧ください。

産業人材育成センターでございます。

職業訓練総務費の摘要欄①のア，職業能力開発校管理運営費につきましては，中央，南部，西部の3テクノスクールにおいて使用する訓練設備等に要する電気料金の上昇分として911万7,000円の増額をお願いするものでございます。

5 ページを御覧ください。

観光政策課でございます。

観光費の摘要欄①のア，サステイナブル観光・外国人誘客推進事業につきましては，県民割による国内観光需要の喚起や外国人観光客の受入れ一部再開など，観光回復への流れを逸することなく2025年大阪・関西万博に向け誘客を一層進めるために，サステイナブル・ツーリズムに関心の高い欧米に向けた観光プロモーションを展開する費用として2,200万円を計上しております。

6 ページを御覧ください。

にぎわいづくり課でございます。

本ページに記載の事業は，令和5年3月19日日曜日に開催を予定しているとくしまマラソン2023大会関連の経費でございます。開催内容の詳細につきましては，後ほど資料に基づき御説明させていただきますが，まず事業ごとの概要について御説明いたします。

計画調査費の摘要欄①のア，次代につなぐ！「とくしまマラソン2023」魅力アップ事業につきましては，大会当日のファンランの開催，大会の魅力向上につながる取組に要する経費として1,600万円を計上しております。

次に，観光費の摘要欄①のア，とくしまマラソン支援事業につきましては，2023大会を開催する経費として3,000万円を計上しております。

続きまして，摘要欄①のイ，みんなが安全・安心！なっ「とくしまマラソン」感染症対策支援事業につきましては，ランナーやボランティアなどマラソン関係者の皆様が安心して大会に参加できるよう，感染症対策を実施するための経費として5,900万円を計上しております。

7 ページを御覧ください。

繰越明許費でございます。

本年度のにぎわいづくり課の当初予算に計上しておりました渦の道の橋梁^{りょう}修繕工事につきまして，本州四国連絡高速道路株式会社が行う工事との調整の結果，完了予定が次年度となり5,609万7,000円，またアスティとくしまの受配電設備の改修工事につきまして，半導体不足による部品の納期の長期化により完了予定が次年度となるため3,500万円，合計9,109万7,000円の繰越しをお願いしております。

これらの工事につきましては，できる限り早期の完了に向け取り組んでまいりますので，御理解を賜りますようお願い申し上げます。

今定例会に提出を予定しております案件につきましては以上でございます。

続きまして，この際4点，御報告させていただきます。

資料1を御覧ください。

第1点目は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大に係る県内企業への実態調査の結果についてでございます。

今回の調査は、令和4年8月24日から9月2日までを実施期間として、現在の景況感や経営に大きな影響のある要因、今後予定している取組といった項目をお聞きし、御回答を頂いた176者の状況を取りまとめております。

まず、1の現在の景況感、前年同期比につきましては、1行目の全体では緑色の改善又は青色の大幅改善との回答が、オレンジ色の悪化又はピンク色の大幅悪化との回答を若干上回っておりますが、2行目の製造業におきましては悪化が改善を上回っており、5行目の宿泊、観光、旅行、飲食、イベントなどの観光関連事業者におきましては、全国各地で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されていた前年同期よりは改善しているとの回答が多くなっております。

2の現在の景況感、コロナ禍前との比較では、全体で6割以上の事業者が悪化又は大幅悪化との回答となっており、特に外出自粛等の影響を受けやすい観光関連事業者や、従業員数の少ない小規模な事業者において、いまだコロナ禍前の状況と大きな隔たりが見られるものとなっております。

また、3の令和4年度の業況見通しにつきましては、全体では約32パーセントの事業者が好転又はやや好転、約35パーセントの事業者が悪化又はやや悪化となっております。

原材料やエネルギー価格高騰の影響などにより、当面厳しい状況が継続することを見通す事業者も多く見られる一方、観光関連事業者では、今後の旅行需要の回復による業況の好転を見通す事業者がやや多くなっております。

次に、2ページを御覧ください。

4の経営に大きな影響を与えている要因につきましては、aの原材料・資材価格上昇による費用の増加のほか、cの燃料・エネルギー価格の上昇による費用の増加といった費用面の上昇について最も回答が多く、次いでdの消費の冷え込み、eの取引先企業からの発注の減少といった需要の不足について回答が多くなっています。

5の次年度以降の経営に大きな影響を与えると思われる要因につきましては、先ほど申し上げました現在影響のある要因の継続に加え、hの人員不足についても回答割合が高く、多くの企業が経営を支える人材の確保を将来に向けた重要な経営課題と捉えていることがうかがえます。

続きまして、3ページを御覧ください。

6の実施又は予定している取組につきましては、これら課題への対策といたしましてgの増加コストの販売価格への転嫁、hの人材登用・人材育成の強化、eのDX、bの新事業展開についての回答が多くなっております。

最後に、4ページを御覧ください。

県内企業の皆様より国、県等に期待する施策について御回答を頂いております。

これらの御意見につきまして、4ページから6ページにかけて業種別、従業員規模別に取りまとめておりますので御参照くださいますようお願いいたします。

次に、資料2を御覧ください。

第2点目は、徳島県立中央テクノスクール、多目的ホールにおけるネーミング・ライセンス制度パートナー企業の決定についてでございます。

県立中央テクノスクールの多目的ホールにつきましては、平成24年度からネーミング・ライツ制度を導入しております。現パートナー企業との契約期間が当月末に終了することから、この度、令和4年10月1日からのパートナー企業の公募を行い、去る8月31日に開催いたしました選定委員会の選定結果を参考として、現在と同じ四国労働金庫に決定いたしました。

ネーミング・ライツの期間は令和4年10月1日から令和9年9月30日まで、金額は5年間で300万円であり、愛称は現在と同じ、ろうきんホールとなります。

今後ともパートナー企業との連携により、経済団体や企業等が実施する研修会やイベント等に御利用いただき、産業界、県民の皆様が親しまれる施設となるよう努めてまいります。

続きまして、資料3を御覧ください。

第3点目は、とくしまマラソン2023についてでございます。

とくしまマラソンにつきましては、新型コロナウイルス感染症の発生以降3大会連続で実走大会の実施を見送らせていただいていたところでございますが、4年ぶりの開催に向け、去る8月29日に開催されました実行委員会におきまして、2023大会の事業計画案並びに2022大会の収支決算について御承認を頂いたところでございます。

まず、2023大会の事業計画案でございますが、1のマラソンにつきましては、(1)の期日は令和5年3月19日（日曜日）、コースは前回大会の計画と同様としており、表彰の対象は前回大会と同様でございますが、大会記録につきましてはスタートラインを通過してからフィニッシュラインまでのタイムを計測するネットタイムに変更となります。

参加資格は国内在住の方に限定するほか、主催者が行う感染予防対策を遵守していただける方を対象としております。募集定員は従来の2分の1の規模、前回大会から2,500人増となる定員7,500人とし、令和4年11月8日午後8時から11月21日まで参加者の募集を行います。参加料は定員の増に伴いまして、前回大会より1,000円減となる1万3,000円に改定いたします。また、チャレンジアンドチャリティの寄付金を別途3,000円で募り、スポーツ振興や障がい者スポーツ振興に貢献する団体へお贈りすることとしております。

次に、2の中止の判断基準といたしましては、県内に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が適用されている場合のほか、最低限の運営に必要なスタッフ・ボランティアが確保できない場合など4項目を規定しております。なお、大会が中止となった場合には、オンラインマラソンに振り替えさせていただくこととしております。

次に、2ページを御覧ください。

3の新型コロナウイルス感染症対策の概要でございますが、日本陸連のロードレース開催についてのガイダンスに沿った大会運営を実施し、関係者の皆様が安心して参加できる大会となるよう取組を進めてまいります。

具体的には、フィジカルディスタンスが確保できるマラソン定員の設定、密回避のためのスタート会場更衣室の廃止、大会前後2週間の検温と体調管理表による健康管理の徹底、またランナーやボランティアの皆様が感染症対策用品の配付を行うなどの対策を実施いたします。

続きまして、4の今大会における新たな取組といたしましては、ランナーの皆様から希望が多かった大会記録へのネットタイムの採用、オリンピック日本代表選考レースへの出

場権が獲得できる大会として位置付けられるジャパン・マラソン・チャンピオンシップへの加盟申請、完走者のうち参加を希望する方の中から抽選で3名の方に東京マラソンの参加機会を提供するRUN as ONEへの参加、さらには5の関連イベントといたしまして、マラソン当日にマラソンと同じスタート位置から出走する車いすロードレースとファンランを開催いたします。

続きまして、6の収支予算（案）でございますが、収入の部では主催者である県、徳島市等からの補助金、負担金1億2,500万円をはじめ参加料や協賛金、広告料などを含めた2億7,610万7,000円を計上しており、支出の部につきましても収入の部と同額の2億7,610万7,000円としております。

なお、収入の部の増につきましては、感染症対策やコロナ禍前に実施していたファンランをはじめとするイベント開催経費に係る県負担金、参加料などの増に伴うものでございます。また、支出の部の増につきましては、参加定員の増員による運営経費や感染症対策経費のほか、イベントの開催に係る事業費の増に伴うものでございます。

続きまして、3ページを御覧ください。

とくしまマラソン2022大会の収支決算でございます。

去る6月定例会におきまして収支決算見込みを御報告させていただきましたが、とくしまマラソン実行委員会において収支決算が承認され額が確定いたしました。

繰越額につきましては最下段に記載のとおり2,932万7,268円となっております。

今後、感染状況を注視しつつ、安全・安心なマラソン大会の開催に向けしっかりと取り組んでまいります。

最後に、資料はございませんが、とくしまグルメプレミアム食事券の申込状況について御報告させていただきます。

とくしまグルメプレミアム食事券の申込みにつきましては、9月7日水曜日までに発行総数の40万冊を超える購入予約を頂き、同日をもってオンライン申込による受付を終了させていただきました。

なお、オンライン申込と郵送申込の公平性を確保するため、9日5日月曜日から7日水曜日までのオンライン申込分と11日日曜日までの消印を有効とした郵送申込分を合わせて、抽選により当選者を決定し予約券を発送させていただきます。

説明及び報告事項につきましては以上でございます。

御審議のほど、よろしくお願いいたします。

原委員長

以上で説明等は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは、質疑をどうぞ。

喜多委員

ただいま部長から説明がありました、とくしまマラソンについてお伺いいたします。

8月末に開かれた実行委員会で、来年の3月19日に開催することが決められたということでもありますけれども、そこで何点かお尋ねいたします。

昨年度は全国的にも新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったマラソン大会が多かったようでございますけれども、既に8月には北海道マラソンが開催されるなど、今年度は各地でマラソン大会が開催されるそうでございます。今後、とくしまマラソンの開催に向けて取り組まれるわけでございますけれども、改めて何か充実させた点や見直した点があれば伺いたいと思います。

戸川にぎわいづくり課長

ただいま喜多委員から、今回のとくしまマラソンで充実させた点や見直した点についての御質問を頂いたところでございます。

今回のとくしまマラソンでは、より多くのランナーの皆様に御参加をいただき、また満足していただけるよう、関連イベントやおもてなしの部分で充実や見直しをさせていただいたところでございます。

まず、大会当日には車いすロードレースを皮切りに、マラソンそして小学生以上が参加できるファンランの順にスタートすることとしておりまして、年齢や走力、障がいの有無などにかかわらず多様なランナーの皆様が参加できる大会としたいと考えておるところでございます。特に、ファンランは今回初めてマラソン当日にマラソンコースの一部を利用して実施しますことから、若い年代の方をはじめより多くの皆様にとくしまマラソンを体感していただき、マラソンへの興味や関心を持ってもらえればと考えておるところでございます。

また、これまでとくしまマラソンの魅力の一つでありましたおもてなし、沿道応援につきましても、前は日本陸連が策定いたしましたガイダンスに基づきまして自粛を要請させていただいたところでございますけれども、その後この規定も改定されまして、今回はマスクの着用、声なし応援などの感染対策を前提に実施させていただき、ランナーの皆様を後押ししていただければと考えておるところでございます。

さらに、大会当日には藍場浜公園にマッサージやホットサービスといった癒やしや思い出作りをテーマにしたスポットを設けさせていただくなど、ランナーの皆様へのサービスを充実させたいと考えておるところでございます。

大会の魅力アップに努め、御参加いただきました皆様に満足いただけるとくしまマラソンとなるよう取り組んでまいりたいと考えております。

喜多委員

車いすとかファンラン、その他いろいろなイベントやおもてなしの部分をどんどんPRしていただいて、多くの方に参加いただける、また喜んでいただける大会にしてほしいと思います。

続いて、定員についてお聞きします。コロナ前は1万5,000人定員としておりましたけれども、前は5,000人でした。今回7,500人に増やした理由についてお尋ねいたします。

戸川にぎわいづくり課長

ただいま喜多委員から、とくしまマラソンの定員の理由について御質問いただいたとこ

ろでございます。

とくしまマラソンは、日本陸連が策定いたしましたロードレース開催についてのガイダンスに沿った大会運営を実施することとしておりまして、この中で3密を避けた定員設定が求められているところでございます。前回大会の事業計画を決定した段階では、そのガイダンスにおきましてソーシャルディスタンスとして最低1メートルを目安に確保するという規定があったところでございまして、前回大会ではスタートエリアにおいて1人1平方メートルが確保できるよう定員を5,000人と設定させていただいたところでございます。

しかしながら、その後ガイダンスが改定されまして、この最低1メートルを目安とする数字基準が削除されますとともに、別途イベント等における感染拡大防止に関する国からの通知におきましても、人と人との間隔として1メートルを設けるとされておりまして、大声を伴わないイベントでは人と人とが触れ合わない間隔を確保するというふうな形にされたところでございます。

基準が緩和される中におきまして、今回は屋内施設であるフィニッシュ会場の更衣室が密にならないように、過去の大会からゴールされます人数を予測して着替えなどの動作に支障のない空間、1人当たり2平方メートル程度を確保するため、定員を7,500人に設定させていただいたところでございます。

喜多委員

定数が以前と比べると半分になったということで少し寂しい気もしますけれども、参加者が増えれば宿泊や飲食など、県内経済にいい影響がありますので大きく期待したいと思います。

このとくしまマラソンが決定されてから、市内でもランニングの練習をしておる方がよく目に付くようになってまいりました。とくしまマラソンが中止になって残念だとか、とくしまマラソンを走りたいという声はよく聞きます。

次こそは是非大会を開催していただきたいと思っておりますけれども、最近では徳島でも新型コロナウイルス感染症が増えています。先ほどの報告にもありましたが、もう少し感染症対策についてお尋ねいたします。

戸川にぎわいづくり課長

喜多委員から、とくしまマラソンの感染症対策についてどのように取り組むのかというような御質問を頂いたところでございます。

とくしまマラソンの開催に当たりましては、日本陸連のガイダンスにのっとり大会運営を行い、ランナーをはじめ関係者の皆様が安心して参加できる大会となるような対策を講じてまいりたいと考えているところでございます。

まず、ランナーの皆様には大会前後の2週間の体調管理表によります健康管理を行っていただきまして、大会当日には検温、そしてその体調管理表を確認し、出場していただけるランナーの方にはリストバンドを着用していただくことで、スタート位置への入場の管理を行いたいと考えております。

また、競技中も使用できます携帯用の消毒スプレーを配付させていただきますとともに

に、競技中以外のマスクの着用を徹底していただくなどの対策をお願いすることとしております。

そのほか、給水におきましては、紙コップにふたをすることで飛沫混入リスクの低減を図りますとともに、給食や完走記念品の配付時におきましては、個包装をすることによりましてランナーとボランティアの皆様との接触機会の低減を図ってまいりたいと考えております。また、御参加いただくボランティアの皆様にも、ランナーと同様、検温や体調管理表の確認をさせていただきます。また希望する方には抗原定性検査キットなどの配付も考えておるところでございます。

今後、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じまして、国の対処方針の変更などに適切に対応しながら、安全・安心な大会として開催できるよう準備を進めていきたいと考えているところでございます。

喜多委員

マラソン大会で感染が拡大したというような話は聞きませんが、感染症対策は本当に重要でございますので、今後ともしっかりと対策をとっていただきたいと思います。

とくしまマラソンは3大会続けて中止になっておりますけれども、それまでは12回開催されており、正に徳島の春の風物詩と言えるイベントとなっております。開催を心待ちにしている人も多いので、是非とも万全の体制をとっていただいて開催を実現してもらいたいと思います。

梶原委員

とくしまマラソンについて何点かお伺いします。

今回、車いすロードレースの開催は初めてだと思っておりますけれども、人数10人で3.5キロメートルということです。これはどういう意図があって開催されるのか、それをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

戸川にぎわいづくり課長

ただいま梶原委員から、車いすロードレースを開催する意図について御質問いただいたところでございます。

障がい者がスポーツに取り組むことは、障がい者の自立と社会参加を促進しますとともに、障がいのない方との共生社会を実現するための有効な取組の一つであると考えておるところでございます。

これまでとくしまマラソンにおきましては、幅広く多様なランナーに楽しんでいただける大会となりますよう、視覚や知的障がいといった障がいをお持ちの方にも出走していただけてきたところでございますけれども、東京2020パラリンピックの開催を契機といたしました障がい者スポーツに対する注目や関心が一層高まっておりますことから、とくしまマラソンにおきましても車椅子で参加できる車いすロードレースを実施することとしたものでございます。

開催に当たりましては、主催者として安全対策をしっかりと講じた上で、当日の競技運営に御協力いただきます徳島県障がい者スポーツ協会とも連携を図りながら、大会の成功

に向けて準備を進めていきたいと考えております。

梶原委員

分かりました。パラリンピックもあって障がい者スポーツは今だんだんと注目されているところなので、すばらしい取組かなと思います。

一つ心配しているのが、とくしまマラソンの一般の出走者と一緒にスタートされるということですが、道路の整備とか安全の確保体制、その辺をどういうふうにするのか、教えていただきたいと思います。

戸川にぎわいづくり課長

ただいま梶原委員から、車いすロードレースの開催に当たりましての安全対策について御質問いただいたところでございます。

車椅子の特性といたしまして、トップクラスの選手同士で比較いたしますと、車椅子ランナーの方は健常者のランナーの方の約1.5倍のスピードで走行されるというふうに聞いておるところでございます。そのため、マラソンランナーとの混走を避けることやコースの安全性の確保、競技中の緊急対応などの安全体制の構築が重要であると認識しておるところでございます。

まずは、混走の回避といたしましては、車いすロードレースのスタートそのものをマラソンより10分早い午前8時50分とさせていただきまして、車椅子のランナーの走力につきましても10キロで40分、ハーフなら1時間10分で完走可能なものと設定させていただきまして、後からスタートするマラソンランナーが追い付かない間隔を確保したいと考えてございます。

また、競技中の安全性の確保といたしまして、競技を熟知いたしました日本パラ陸上競技連盟の公認審判員の方に審判長を務めていただくこととしておりまして、事前にコースの安全性を確認いただきますとともに、当日は万一の転倒等のトラブルに対応するため審判長の車両が車椅子ランナーの最後尾から追走することとし、車椅子回収車両についても並走させていただきまして、緊急対応ができる安全体制を構築したいと考えております。

今後とも競技関係者や医療関係者の御意見、また他県の大会運営の状況も参考にしながら、万全の体制で大会運営に努めてまいりたいと考えております。

梶原委員

参加人数が10人ということなんですけれど、こういうふうに絞られた理由が何かあるのでしょうか。

戸川にぎわいづくり課長

ただいま梶原委員から、車いすロードレースの定員を10人とした理由という御質問を頂いたところでございます。

マラソンと併催する形で開催されております車いすロードレースは、全国状況を見ますと、10人から30人程度の定員設定とされている大会が多いというような状況でございます。とくしまマラソンにおきましては、2020大会で計画しておったんですけれども、そ

のときは初めての開催，またマラソンとの同時開催ということ踏まえまして定員を20名で設定させていただいたところでございます。

今回の2023大会では，コロナ禍の中での開催となりまして，特に車椅子ランナーについては，障がいの原因によっては基礎疾患をお持ちの方も出るというようなことも踏まえまして，マラソンと同様，2020年大会の定員の半分となる10人に設定させていただきまして，整列時の密集回避などを図っているところでございます。

梶原委員

大成功を祈っております。

次に，観光のほうですけれども，今回新しく出ておりますサステイナブル観光・外国人誘客推進事業についてお聞きします。

この中で，本県の強みであるサステイナブルな観光コンテンツを生かしてというふうに掲載していますけれども，このサステイナブルな観光コンテンツは本県においてどういうところを指すわけですか。

利穂観光政策課長

ただいま梶原委員から，サステイナブル観光とは具体的にどういったものかという御質問を頂いております。

サステイナブル・ツーリズムですけれども，持続可能な観光と言われまして，観光誘客とともに地域の環境や文化，仕事を守りながら観光による経済効果によりまして，持続可能な地域を作っていく取組でございます。

具体的には，本県には既に上勝町のゼロ・ウェイストでありますとか，いろいろ，それから海陽町の世界初の二刀流DMVといった地域資源の活用や地産地消の取組，また阿波おどりや阿波藍といった伝統文化の継承など，雑誌等にも大きく取り上げられ全国的にも注目を集めているSDGsや持続可能な取組というものが県内には多数存在しております。

これらの徳島のSDGsを新たな観光コンテンツの切り口として観光誘客につなげて，地域に経済効果をもたらす徳島ならではのサステイナブル・ツーリズムとして効果的に観光プロモーションを展開していきたいと考えております。

梶原委員

分かりました。それから，（2）欧米での観光プロモーションを行うとあります。アメリカ最大級の旅行博に出展するということですが，これはどこですとかブースの賃料とか，県から職員の方も一緒に行くのかなど，その辺の詳しいことを教えていただければと思います。

利穂観光政策課長

ただいま梶原委員から，米国での旅行博出展につきまして，その詳細についての質問を頂いております。

米国は，本県外国人宿泊者数につきまして全体で4位，欧米の中で1位，さらには先ほ

ど申し上げましたサステイナブル・ツーリズムやDMV等に関心が高いということで、今後誘客数の高い伸びが期待できるところでございます。

そこで、県内の地域DMOとの連携を生かしまして、全県での新たな取組として、米国をターゲットとしたプロモーションを展開したいと考えております。

具体的には、来る2月に米国のロサンゼルスで開催される旅行博、ラタスというものがございまして、出展しましてサステイナブル・ツーリズムに関心が高い一般消費者、一般旅行者の方や観光業界の関係者に向けまして、本県の魅力を積極的にPRしたいと考えております。

出展につきましては、海外旅行博の出展業務のノウハウのあります旅行会社等に委託して、その費用として520万円を計上させていただいているところでございます。

その他、職員がこちらから直接行って現地でセールス等々を行いたいと考えておりますので、4名ほどを想定しております。

梶原委員

為替レートが今1ドル144円と高いので、ふだんは東京で様々なフェアとかをやるときのブースの賃貸料は大体12畳で高くて100万円ぐらいです。僕もそういう仕事をしていたので分かるんですけど、やっぱりこれは為替の影響でこれだけ高いということですか。

利穂観光政策課長

旅行博の出展につきましての費用が500万円ほどということで、かなり掛かっているという御質問がございました。

こちらのほうは出展ブース代プラス装飾費用、更に行ってから現地セールスでの調整費、そこら辺も掛かっております。あとは、為替が144円ということになっておりますので、その辺でかなり円安ということで向かい風といいますか、上がっているというところでございます。

梶原委員

県職員の方が4名行かれるということで、僕はいいことだと思います。現地のどこかに丸投げではなくて、やっぱり県の職員の方が自ら行かれてセールスをされると、それを肌で感じてくるというのは非常に大きな財産になると思います。多額の経費も掛かりますので、やっぱりそれなりの見える成果が出るように、またしっかり頑張ってきていただきたいと思います。よろしくお願いします。

達田委員

先ほどプレミアム食事券の報告がこれに出てきたんですけれど、今見たらないのでもう一回お尋ねしたいんですけれども、結局申込みが何人で当たった人は何人だったんでしょうか。

出口商工政策課長

ただいま達田委員より、とくしまグルメプレミアム食事券についての御質問がございま

した。

当プレミアム食事券につきましては、7月8日金曜日から22日金曜日までの15日間募集させていただきまして、これは1人5冊というような制限を掛けさせていただいております。その中で、全体で40万セットの発行部数のうち大体53パーセントに当たる21万3,308冊の応募を頂きまして、これにつきましてはもう予約券を発送いたしました。

翌月曜日から追加募集という形で、これは1人5冊までということで回数制限は解除させていただきまして、複数応募できるというところで40万冊の予約を頂けるまで公募させていただいております。そうしたところ、9月7日時点で発行予定数の40万冊を超える購入予約、オンラインのほうが即時性がございますので、オンラインでもって40万冊になった時点でこの申込みについては終了させていただきまして、最終的には1週間単位で予約券を発送いたしておりますので月曜日から日曜日、つまりオンラインについては水曜日時点で止めまして、次の木曜日から日曜日までの郵送分がございますので、その郵送分は日曜日の消印まで有効とさせていただきまして、多分、来週中旬ぐらいまでには事務局のほうにその郵送分が届くかと思えます。

その1週間分で40万冊に達してない分が8,000冊ぐらいあったと思うんですけども、それと予約数を比較して多ければ抽選ということですが、結局のところ40万冊が上限ですので、40万冊の予約券をこれで完了するということです。

達田委員

ありがとうございます。インターネットが分かりにくいんだという方がいらっしゃって、なかなか申込みできないと。けれども、はがきもできるよということで、はがきで申込みをされた方もいらっしゃるんですけども、送ったけれどもなかなかお返事が来ないんでもう駄目かなと思ったんだという方もかなりいらっしゃったんです。

今お聞きしたら、オンラインの場合と郵送の場合でちょっと送るのがずれているんですね。それで、余りにもお返事が来ないから駄目だったんだろうかと思って、当たっているかどうか分からないという方が問合せをしたらしいんです。そうしたら、当たっていますよと、送りますと言ってくれたのはいいんですけど、一人の方がレストランとかを5件分お願いしたら一人なのに別々に5件分が速達で来たというんです。県ってたくさんのお金があるんだと、たくさんお金が余っているからこんなことをするんだろうかと、1冊の封筒で入れてくれたらかまわないのにと書いていました。だから、皆さんにこういうふうにされるんですか。それともこの方だけ特別だったのでしょうか。

出口商工政策課長

達田委員より、1件ずつ速達で送っているのかどうかという御質問がございました。

オンラインとかはがき共に一人5冊まで申し込めるというところで、1回の申込みを1件というふうにカウントさせていただいております。1人が5冊を1回で申込まれた場合は、その5冊分を一つの封筒で郵送させていただいております。

この方、ちょっと今のこの写真だけでは分かりかねるんですけども、多分5回、1冊ずつ申込まれたのかなと思います。結果的に封筒が5冊で、それぞれの店の分が5回にわたって同じ人に速達で郵送されたのかなと思われま。

達田委員

5枚もはがきを出したということはお聞きしていないんですけれども、私も最初のほうにお願いしてはがきで送りましたら、一つの封筒で何件かのお店の分が入ったものを送っていただいたので、それが普通かなと思っておったんです。もしかしたら、一部の方にはこういうふうな送り方をしているのかなと思ったんですけれども、郵送代もばかにならんと思うんです。

ですから、やっぱりできるだけ安い方法で、これは食べられる期間があるでしょう。明日でなかったら間に合わないというものじゃないので、やっぱりふだんは使わないようにしてほしいと、無駄遣いはしないようにしてほしいということだけをおの方は願っておられます。私にだけこうやってしてくれたんだろうか、みんなにこうしているのだろうか、県はすごくたくさんのお金があるんだろうかと、そういう意見をおっしゃっていましたので、こういうことがないように。一人の方だったら一人の方に1冊の封筒で大丈夫だと思いますので、是非その点、お金を節約できるように工夫していただきたいと思います。

それと、これは非常に人気があるお食事券で、ふだんはなかなか家族で食べに行くことができないけれど、これが当たったから一緒に行くと楽しみにしている方もたくさんいらっしゃるし、お友達と一緒に食事に行きたいと、コロナが収まったらみんなで行こうと、年末までには行きたいんだということを楽しみにしていらっしゃいます。

ただ、今お伺いしますと、40万セットがあるんだけれども、順調にいった全部がはけていくということになりますと、やっぱり駄目だったという残念な方もいらっしゃるかと思うんです。

それで、これはどうなんでしょうか。当たらなかつたという人がいらっしゃったら本当に残念なことなんですけれども、もうこれで終わりということなんでしょうか。

出口商工政策課長

ただいま達田委員より、今回の御応募で当たらなかつた方はこの限りで使えないのかという御質問がございました。

まず、その前の郵便の話ですけれども、今回のプレミアム食事券につきましては、非常に事務経費のほうも最大限に効率的な発送であるとか、受付業務ができるようにそこに意を配って運営しております。ただ、40万セットというふうにかかなりのボリュームがございますので、7月上旬から募集させていただきまして昨日までですので、結果的にはおおよそ2か月間で40万セットの御予約が頂けたというふうになっております。

その中で、たまたま複数回御応募される方がいらっしゃった場合、じゃあ2か月間ずっと運営事務局のほうで抱えていて、その方を名寄せして一つの封筒でお送りしたら、結果的にはその方の御利用期間が年末までというふうに限られた期間でございますので、そこでの利用度が下がるのかなと思ひまして、1回分で5冊までは御応募できましたので、その御応募のごとに封筒でできるだけ早く、その利用者の利便性を損なわない範囲内で、かつ事務経費もできるだけ削減できるように効率的に運営してまいりました。

次に、現在予約券を頂いていない方について今後の可能性はどうかという御質問でございますけれども、8月1日から12月31日までの利用期間というところで、結果的に2か月

にわたっていろんな広報媒体，市町村を含めて商工団体からも情報発信させていただいております。また，いろんなデジタルサイネージであるとか，新聞とかラジオとかでも広報して，結果的に今回御応募できない方というのが中にはいらっしゃると思うんですけども，まだまだ利用期間が12月年末までございますので，改めて今後の追加うんぬんというのは今のところは考えていなくて，今の40万セットの分をできる限り適正かつ安全・安心な飲食サービスの提供について意を配ってまいりたいと考えております。

達田委員

郵送については全ての方に速達で行くわけではないということですよ。この方だけ特別だったということですね。

出口商工政策課長

基本は普通郵便で発送させていただいております。ただ，まだ事務がスタートする段階で，ちょっと事務処理のほうで不慣れな部分がありました。ただ，8月1日からお食事スタートというふうに御案内を差し上げておりましたので，仮にもうここの店を予約しているというような急ぐ方につきましては，お電話いただいたらこのようなサービスといたしますか，速達でお届けさせていただいたケースもございます。

達田委員

ありがとうございます。引換えの期間も延ばしていただきましたし，年末までにお店がなくなっているかも分からない心配がなくなりましたので，その点はもうよかったかなと思います。

ただ，お食事券を頼める方はいいんですけれども，やっぱり家族で食事に行きたいと思ってもなかなかゆとりがなくて，5件もなかなか頼めないという方もいらっしゃるんです。それで，もうちょっとリーズナブルな安いお食事券もできるような何か工夫をしていただけたらいろんな方が頼めるかなと思いますので，そういう御意見もありましたのでお願いしておきたいと思います。

もう1点ですけども，マラソンの件です。

マラソンで一番心配なのは，やっぱりウイルスの感染防止という，感染しないかということなんです。感染対策ということをきちんと書かれてはいるんですけれども，この中で，保健所から濃厚接触者として認定され7日間にわたる健康状態の観察期間を経過していない場合とか，保健所の認定がなくても周囲の状況から濃厚接触が疑われる場合は参加できませんよということが書いてあるんです。

それと，同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合というのもそうなんですけれども，今は非常に濃厚接触者が曖昧になっていまして，同じ家族から感染者が出ましても家族が濃厚接触者かどうかというのも保健所が言ってこない場合が非常に多いですよ。元気で症状が出なければもう全く大丈夫と思って，もしウイルスを持っていたとしても自由に行動されるんじゃないかと思うんです。身近な知人に感染が疑われる方がいる場合と言っても，それも非常に曖昧な基準ですよ。せきが出ても何のせきかも分からない，熱が出ても何の熱かも分からないということで，非常に今曖昧になっていまして，

その点をどうやって防いでいくのかというのが大事じゃないかなと思うんです。

阿波おどりのときもたくさんの方が感染されたということですが、その関係性というのが十分よく分からないままで来ていますけれども、やっぱりここはちゃんと感染させない、自分もうつらないようにするのはもちろん大事ですけれども、とにかく人に感染させないという配慮があると思うんです。そのために、ここに書いてある特別規約で大丈夫なんだろうかなと思うんですけれども、このチェックはどういうふうにされるのでしょうか。

戸川にぎわいづくり課長

ただいま達田委員から、とくしまマラソンの感染症対策についての御質問を頂いたところでございます。

感染症対策につきましては、主な内容を去る8月29日、とくしまマラソン実行委員会のほうで提案させていただき御了承いただいたところでございます。今後、ランナーの皆様あるいはボランティアの皆様に募集を掛けさせていただくときに、参加いただく場合といますか、従事をお断りするような場合というようなことで告知させていただくこととしておりますけれども、どういうふうな記載内容が分かりやすいのか、またその確認をどのようにするのかというところにつきましては、分かりやすい内容になるように検討していきたいと思っております。

今のところは、やはりまずは自己申告というふうな形で考えておったところでございませうけれども、表現が分かりにくいということであればその内容についてもちょっと確認させていただいて、今後ランナーの募集でありますとかボランティアの皆さんを募集させていただくときに、分かりやすいような表現で確認しやすいような内容にしていきたいと考えてございます。

原委員長

達田委員、まとめてください。

達田委員

それともう一つが事後報告です。

大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症への感染が発覚した場合に、主催者に報告し自治体や保健所等への調査に協力してくださいとありますよね。

それともう1点が、大会終了後に感染症を発症した参加者が発見された場合は、その感染経路の特定に協力してくださいということが書かれているんですけれども、この感染経路の特定というのも今本当に曖昧で、やっているところもあればやってないところもあるということになっていますし……。

原委員長

達田委員、時間ですのでまとめてください。

達田委員

感染が発覚した場合にこれを報告するということですが、アプリか何かを使って報告するような方法があるのでしょうか。きちんと報告はできるのでしょうか。

戸川にぎわいづくり課長

ただいま達田委員から、とくしまマラソンの感染症事後報告について御質問いただいたところでございます。

アプリのほうは大会当日までの機能となっておりますので、飽くまで事後報告につきましては御参加いただいた方からの自己申告という形になってくるものでございます。

それで、感染ルートの確認等々につきましても、今、日本陸連が策定いたしておりますロードレース開催についてのガイダンスに基づいてさせていただいているところでございますので、今後そういった見直しなどがあればそれに対応するような形で取り組んでいきたいと考えておるところでございます。

仁木委員

2点、質問させていただきたいと思います。

1点目においてはマラソンの関係であります。マラソンの開催うんぬんかんぬんではなくて、ランのほうにおいては大会記録の1位の人に団体から賞金が100万円ということですが、今回、車椅子もろもろ3事業が一緒にするということになります。ランだけではなくて、そういった車椅子においても100万円とは言わないので何かしら配慮をすべきでないかと。お金の出所というのは団体から下りてくるから、そのままお渡しするという話なんだろうけれど、その賞金を公表してやるのであれば、ほかの競技においても配慮すべきでないのかと思うんです。その点、以前のレクでも言っておりますので、何かしらのお考えがあるんだしたらお聞かせ願えますか。

戸川にぎわいづくり課長

ただいま仁木委員から、とくしまマラソンの車いすロードレース等への賞金について御質問いただいたところでございます。

とくしまマラソンでは、一般財団法人アールビーズスポーツ財団が主催しておりますマラソンチャレンジカップというものに参加しております。参加の特典としまして自己ベストの記録表や初フルマラソン完走証といった証明でございますとか、あるいはスマートフォンアプリで応援するランナーの道を把握できます応援ナビというようなシステムがありまして、ランナーの皆さんを応援されている方に喜ばれておるところでございます。その中の特典の一つで、大会記録を更新して優勝した方についてはタイムに応じて賞金が授与されるという形で、それは最高100万円だというふうになってございます。

このマラソンチャレンジカップに付いてくる参加する費用につきましては参加料などに含まれておるわけですが、車いすロードレースのほうではこうした制度がないというところと、それから参加料も有料大会が多い中で車いすロードレースにおいては無料とさせていただいております。ただ、委員から御提案いただきましたように、賞金を授与することで競技性が高まるということもあるかと思いますし、今後、車椅子ランナーとか関係者の方の御意見をお聞きしながら、その点については検討、

研究をさせていただきたいと考えております。

仁木委員

是非とも検討はしていただきたいと思います。機運醸成とかそういった問題ではなくて、一緒の日と一緒に企画してやるのであれば、やっぱりそういった部分も配慮して一緒にというものに気を配っていただくほうが公平でいいかなと思いますので、その点をよろしくお願ひしたいと思います。

次は、先ほどありました観光政策課のサステイナブル・ツーリズムによる観光誘客促進ということでありまして、先ほど梶原委員が質問していただいたことを私もすごく気になっておって、それを聞かせていただきます。

この予算の内訳でありますけれども、レクの際にお聞きしたのはプロモーションの全体が1,700万円ということで、この米国が1,320万円そしてドイツが380万円で、ドイツのほうはウェブプロモーションということで動画作成とお聞きしたんですが、この米国のほうを先ほどの御説明で言いましたら、職員さんが4名行かれるということで、その会場の利用費ともろもろの経費も入れて500万円ということでありましたので、差し引いてみますと820万円がその旅費、宿泊費のみなんですかと。これを4人で割ったら1人200万円の経費になりまして1週間、2週間行くのに1人頭200万円要るんでという話になってくるんです。

具体的には事務手数料とかいろんなものが要るんでしょうけれど、会場費で500万円要って、こっちのほうにコンサル料を入れているのであれば、その点はどういう試算になってこの予算なのか、ちょっと教えてもらいたいと思います。

利穂観光政策課長

ただいま仁木委員から、サステイナブル観光・外国人誘客推進事業の件について、米国に関するプロモーションについての積算根拠をということで御質問いただいております。

まず、先ほど申し上げました旅行博出展費用が520万円となっております。こちらのほうが出展費でありますとか出展に係る装飾費でありますとか、あと運搬費でありますとか現地スタッフ、その通訳とかで520万円。あと、現地営業をして旅行会社がそこから徳島のほうにまた来ていただくという旅費も含めまして400万円。あとは、職員の旅費としまして400万円ということで合計1,320万円となっております。

約1週間程度の予定となっております、その間の2日間の出展前後に営業セールスを掛けていくといったところでございます。

仁木委員

今ので何となくは分かったんですけど、職員さん4名が行くんですね。営業を掛けて向こうから来てもらうということは、その旅費と執行するのがずれるということですか。執行というか、ロサンゼルスに行く経費として使いますよね、出展も使いますよね。残りの400万円においては、そこで営業して来てくれるとなったら使うということになるんですか。

利穂観光政策課長

ただいま仁木委員から、現地セールスにつきましての御質問を頂いております。

取りあえず現地セールスを4社程度しまして、その中から年度内に2社ぐらいを徳島の現地に来ていただいて商品を作っていただくということでございます。

仁木委員

そうしたら、何でこれを聞くかと言いましたら、例えばロサンゼルスに行ってロサンゼルスとかアメリカから人をインバウンドで呼び込むとして、旅費が大体50万円、円安だったらもうちょっと60万円、70万円ぐらいいくのかなと思うんですが、この1,320万円を掛けてされるのであれば、70万円とか60万円の1人頭の旅費を支払ってあげて呼んでくるほうがよかったとならないでほしいわけなんです。結局はそれ以上の効果は出してほしいんですけれども、その効果指標は一体何で想定されておるのか、ちょっと教えてもらいたいです。

例えばですけれども、インバウンドでその観光商品で来てくれた総人数であるのか、それとも営業に行った先の会社で旅行商品になったその商品数でいくのか。また、目標をどれぐらい立てられているんですか、ちょっと教えてもらえますか。

利穂観光政策課長

ただいま仁木委員から、この米国における目標、成果指標といったものはあるのかという御質問を頂いております。

成果につきましては、各旅行会社に営業に行きますので、旅行会社が商品を作ってくれるのが一番になります。その旅行商品につきまして、目標としては約5商品を作ってもらおうということで考えております。最終的には御質問のあったアフターコロナを見据えまして県内外国人宿泊者数はやっぱり増やすということで、目標の3万4,000人に大分遠いですが、それに近づけるようにしっかり頑張っていきたいと考えております。

仁木委員

ごめんなさい、人数は何人って言いましたか。

利穂観光政策課長

目標が行動計画で3万4,000人になっておりますので到底まだ、一応直近でいうと1万人来ていない程度ですけれど、それに近づけるようにしっかり頑張っていきたいということでございます。

仁木委員

是非ともその投資効果を出していただきたいと思います。しっかりと営業していただきたいと思いますので、よろしく願いを申し上げます、私からの質問を終わります。

原委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、商工労働観光部関係の調査を終わります。

これをもって、経済委員会を閉会いたします。（14時44分）